

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

私は、成人看護学において手術を受ける患者様とその家族の看護を教えています。

ほとんどの学生は手術の体験が無く、そのため手術を受ける患者様、特に手術直後の患者様をイメージすることが難しいようです。そこで、授業ではできるだけ具体的にそれぞれの場面がイメージできるように工夫しているつもりです。私の過去の臨床経験の中から授業内容に関連するエピソードを選んで紹介しています。もちろん失敗談もありますが、できるだけ笑ったり感動したりして頂いて、それらとともに手術を受ける患者様の看護の重要性が心に残ってもらえれば良いな、と思いながら授業を行っています。また、私のつたない経験談で少しでも「看護って面白そう、楽しそう」と思ってもらえると嬉しいなと思っています。

もう一つ、私が授業で心がけていることは時間厳守です。始まる時間もそうですが、特に守っているのは終了時間です。終了時間が延びないようにタイマーで時間管理をしています。これは私が学生時代、授業時間が長くなり休み時間が短くなるのがとても嫌だったからかもしれません。しかし、終了時間を厳守するあまり、中途半端に授業が終了してしまうことがあり、これでは本末転倒と反省することもままあります。今後はこのようなことがないように、しっかり管理したいと思っています。

● 学生への要望・アドバイス等

看護の対象となる人は、厳しく辛い状況にあることが多いと思います。このような状況にある方のお世話をすることは大変意義のあることですが、大変難しく苦しいことでもあります。看護に必要な能力は様々ですが、最も簡単に手に入れることができるのは知識ではないでしょうか。対象となる方の前に立ったときに知識は皆さんを助けてくれると思います。どうぞ、知識を身につけてください。

また、看護は対象者の人生と向き合う仕事でもあります。自分が生きてきた状況や背景とは全く異なる人生を生きる人たちと接することになると思います。小説などの文学作品、映画、ドラマ、漫画・・・、たくさんの良質な作品に触れて、たくさんの人生を模擬体験し、経験の幅を広げていくと良いと思います。経験を広げることで相手の立場や状況を思いやる心が生まれ、それが看護者としての態度につながるのではないかと思います。

今回、このような賞をいただき大変光栄に思っております。今後も「看護は面白い、楽しい」と思ってもらえるような授業を心がけたいと思います。ありがとうございました。